

経営課題

コスト削減と  
経営の見える化

課題解決策

業務の標準化  
原価の把握ITによる  
課題解決策ERPシステムの導入  
プロジェクト管理

ACT事務所

代表者：安藤 英世  
 本社所在地：愛知県名古屋市  
 緑区東神の倉2-136  
 売上高：9億円  
 従業員：45人  
 創業：1984年4月

## 【お客様の夢を実現し、感涙して頂く仕事をする】

ACTの業務は大きく分けて2つあります

- ①お客様のニーズを120%実現する注文住宅と店舗の設計・施工業務
- ②店舗の什器をリフレッシュし再利用することで、コストを節約しながらお店を生まれ変わらせるグリーンサービス事業

## 事業拡大に迅速に対応できる仕組み作り

## 社長の困りごと・想い

- 1.建設業に加え、新たにウッドメイク製品の製造業も始めたが、業務が標準化されておらず、人手による作業が多い
- 2.原価のうち人件費については案件毎にどれだけの費用がかかったのか把握できておらず、特に失注した案件についてはまったく費用が把握できない
- 3.常に新規事業の可能性を模索し、事業拡大に迅速に対応できる仕組み作りが必要

## きっかけは？

平成17年度のIT経営応援隊事業として開催された「経営者研修会」に参加したことがきっかけでIT経営に対する必要性に気づきを持った。

その後新事業として什器(ウッドメイク製品)の製造業も行うこととなり、これを機会に基幹システムの導入を決意し、経営者研修会の講師であった名古屋ソフトウェアセンターのITコーディネータに相談し、基幹システムの構築に取り組むこととなった。

## こうして解決した

- 1.IT戦略プロジェクトを結成し、ITコーディネータと共にIT戦略の策定から始めた。
- 2.業務の棚卸を行い、現状業務の問題点を洗い出し、自社の業務が全社最適となる新業務フローを作成した。
- 3.新業務フローをベースに、必要となるIT化要件を洗い出し、「IT戦略企画書」としてまとめた。
- 4.提案依頼書を作成し、複数社からの提案依頼を受けベンダーの選定を行った。ベンダーの選定にあたっては最後に残った2社のうちもう1社の方が使い勝手の面では上回っていたが、最終的には使い勝手より目標達成に重点を置いて選定を行った。

## 社長の一言

今回初めての基幹システムの導入であったが、ITを活用することで経営データがリアルタイムに把握できるようになり、迅速な経営判断が行えるようになった。

経営者の気づき  
フェーズ事例経営戦略  
フェーズ事例IT戦略策定  
フェーズ事例IT資源調達  
フェーズ事例IT導入  
フェーズ事例ITサービス活用  
フェーズ事例

## こうして経営課題を解決した

### ERPパッケージとグループウェアの連携による、経営情報の見える化の実現

業務の標準化・効率化を実現するために基幹システムの導入が必要であり、その際に建築業と製造業の両方に対応できることや、今後新たに新事業を行った場合でも対応可能なシステムとする必要があるため、ERPパッケージの導入を行った。これにより、手作業や重複作業が削減され業務の効率化が実現でき、データを各担当者が発生

の都度即時に入力する仕組みとしたことで、経営データがリアルタイムに把握できるようになった。また原価管理においては、グループウェアと基幹システムを連携することで、各担当はグループウェアにて予定と実績を入力することで案件毎の作業工数を収集できるようにしたことで、作業工数を正確に把握できるようになり原価管理を実現した。

#### 課題解決のポイント

##### ◆常に新規事業の可能性を模索し、事業拡大に迅速に対応できる仕組み作り

社長は、「常に新規事業の可能性を模索し、事業拡大を図りたい」という想いがあり、そのためには5年後・10年後を見据えて拡張性の高いシステムを実現し、建築業に合うシステムをベースに製造業にも対応可能なシステムとすることを大目標として取り組みを実施した。

目標を達成するためには、現在の企業規模や業務だけを考えず、あらゆる業務を標準化するために、ERPパッケージの導入を行うこととした。ERPパッケージの導入により、業務の標準化と経営情報の見える化を行い、コスト削減とスピード経営を実現した。

##### ◆プロジェクトの進捗管理と原価の把握

社長が特に重点を置いたのが「原価管理」で、各担当者に原価意識を持たせ各人が原価低減活動に自主的に取り組める環境を構築することが重要であるが、そのために担当者的入力負担が高くなってしまっは使われないITになる危険性があるので、入力負担の少ないシステムとすることがポイントであった。

これを、グループウェアにて予定と実績を入力し、プロジェクトの進捗管理を行うと同時に作業工数の集計も行える仕組みとし、また携帯電話からの入力にも対応したことで現場においても入力作業が可能となり、作業工数を正確に把握できるようにした。

#### IT活用成功のポイント

- 1.IT戦略企画書の作成から始め、何のためにIT化するのか課題と目標を明確にしたことで、プロジェクトメンバーの目標がぶれることなく、導入を行うことができた。
- 2.IT戦略プロジェクトの経過報告を、全社員を集めて定期的に行い、全社員でIT導入の目的を共有したことで、社員に対する意識付けが行えた。
- 3.ベンダーの評価に当たっては、最終評価のためにプロジェクトメンバー全員で各ベンダーへ出向き、実際に操作を行う等してメンバー間での積極的な意見交換を実施し、全員で評価することができた。
- 4.ベンダー選定時には、目先の使い勝手等の評価より、IT戦略企画書の目標が達成可能かどうかを重視して評価を実施することができた。
- 5.IT導入時には、実際に基幹システムを操作するメンバーを中心に新たなプロジェクトを結成し、詳細仕様の決定に積極的に参加し、使いやすいシステムを目指すことができた。
- 6.IT導入後は、IT推進担当者を指名し、問題点などを随時ベンダーに上げ、IT活用を推進した。

#### 活用した公的施策や表彰等

- ・IT経営応援隊事業「経営者研修会」参加
- ・2008年度 IT経営力大賞IT経営実践企業 認定

サポーター紹介



#### ■ 秋山 剛

ITコーディネータ  
認定番号:0067512006C  
株式会社ITイノベーション  
E-Mail akiyama@it-innovation.jp

#### <キャッチフレーズ>

愛知県の中小企業を中心に、IT活用で「中小企業を元気にする」をテーマに活動を行っています。